

## ● 寄稿4

# Get a Life!

デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザー合同会社 田中 純

### 抄録

2016年4月に特許庁(JPO)入庁。2016年7月から2020年12月まで、審査第一部計測にて、GPS・レーダ/ソナー/ライダー・無線等による位置・距離測定センサー技術の審査を担当。2021年1月から2022年6月までは、総務部国際政策課多国間政策室にて、欧州係長として、欧州各庁との間の二国間(バイ)、日米欧三極特許庁間やG7各国の知財庁間等の多国間(マルチ)の知財政策を担当。実務者レベルでのやり取りや長官・副長官会談・シンポジウムの調整を行った。2022年7月から2022年12月までは、審査第一部審査調査室にて、専門官として、審査処理実績データ分析を通じた審査官の人員配置最適化提案や審査業務効率化等を担当。2022年12月に特許庁退職後、2023年1月に、デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザー合同会社(DTFA)入社。主に、知財戦略立案に関するコンサルティング業務等を専門としつつ、全社案件にも参画し知財に限らない業務オペレーション効率化等も担当。

## 0 はじめに (自己紹介)

この度、縁あって、特技懇誌での執筆の機会をいただきました、田中 純と申します。特技懇誌は特許庁(JPO)の職員の読者が特に多いと思われるところ、JPOでの在職期間も7年弱とそこまで長くなかったため自分を知らないという方も多くいらっしゃるかと思います。つきまして、まずは簡単に自己紹介させていただきます。

### 0.1 衣食住

まずは、日本人なら誰もが知っていると思われる古来より存在するフレームワーク「衣食住」を用いた自己紹介をさせていただきます。

#### 0.1.1 衣

自分は、普段、夏場は、アロハ(かりゆし)、冬場は、NASAジャケットを着ていて、年中下駄を履いている人です。あまりそうした格好の人はいないかと思いますので、霞ヶ関・虎ノ門付近でそういった格好の人を見かけたことがありましたら、それはおそらく自分かと思います。見覚えがあるという方

につきましては、「あの人が書いている文章なのか〜!」と思いながら本稿を読んでいただけましたら、少し興味をもって本稿を読んでいただけるかもしれません。

ちなみに、下駄は中学1年生の頃から履いており下駄歴は20年以上ですので、下駄を選ぶ際にはご相談いただけましたら何らかアドバイスできるかとは思っています。なお、自分のおすすめは、大分県の日田杉という杉を台木にしている下駄です。

#### 0.1.2 食

自分と一緒にご飯に行ったことがある人はご存じかと思いますが、見た目のわりに食べる量が非常に多いです(とても燃費が悪い)。学生時代には、明らかに食べ過ぎにより健康診断で度々ひっかかって時には通院していたりもしましたので、そろそろ年齢的にも代謝が落ちてくることもありますし、最近では本当に食習慣には気を遣わないといけないと思っております。

個人的に、食への関心が非常に高く食を充実させることは人生の楽しみの一つであると考えています。以前は、食関係のイベント(プリン教室や鮭会等)

を30~50人規模で開催したり、素晴らしい飲食店を多く擁する谷根千(谷中・根津・千駄木)エリアを巡るツアーを20人規模で開催したりしていました。エンゲル係数が非常に高くなっております。

ちなみに、谷根千は学生時代から現在に至るまで10年近く通っており、ちょっとしたコラムが書けるくらい、その辺の飲食店やスポットには詳しくなっております。つきまして、仮に、谷根千特集に関する執筆依頼がございましたら、いつでも執筆させていただきますので、ぜひご連絡いただけますと幸いです(笑)。

### 0.1.3 住

住まいが特徴的でして、約4年前から200人近くが住む多国籍な大型シェアハウス(シェアハウスとはいっても、どちらかという、学生寮や社会人寮に近いイメージです)のようなところに住んでおり(ちなみに、よくよく考えると、実家も共用部が多く存在する家でした)、国籍・職業・性別・年齢がばらばらな人たちと、ひとつ屋根の下で日々生活を送っております。例えば、国籍でいうと、これまで30以上の国・地域の人たちと一緒に生活したことがあります。また、学部時代・大学院時代の研究室のいずれも比較的多国籍な研究室でしたので、後述する特許庁国際課の仕事では色々な国・地域の人とやり取りする仕事でしたので、その意味ではちょうどよかったと思います。

さらに、家の人たちとは色々な活動を行ってまして、例を挙げると、東急東横店・JR玉川改札シャッターが閉鎖する際に、シャッターがクローズしてからオープンするまでの間にシャッターにグラフィティアート(落書き)を描くというのをしに行ったり(※公式なイベントで合法です(笑))、クラウドファンディングを行ってシェアハウスをテーマにしたボードゲームを作成したり、国籍をまたいだバンドでライブハウスにてライブを行ったり(自分は楽器演奏をせずにバンドアンバサダーという謎ポジションです(笑))、屋外でプロジェクターにより壁に映画を投影して屋上映画上映会をやったり、30人くらいでラウンジに集まってサッカーワールドカップの応援をしたり、全国穴掘り大会に出場したり、100人以上の規模が参加するクリスマスパーティ(クリパ)の準備を行ったり(「広報班」「装飾班」「風紀

班」「ゲーム班」「料理班(デザート)」などを担当したことがあります)といったように、自分は直観的にももしろそうだと思ったことを企画したりして皆とワイワイやりながら一緒にやっていくのが好きなタイプの人間です。



図1 東急東横店・JR玉川改札シャッターに描いたグラフィティアートの例[写真左]、クリパでカジノスロット台をイメージして作成した装飾の例[写真右]

※スロット台のリールに当たる部分は、iPadを使いリールが回転する動画がリピート再生されるようにしていました

## 0.2 大学・大学院の専攻

続いて、専攻していた技術分野についてです。自分は、工学系出身のところ、そのなかで大学入学時は化学系を専攻するつもりで入学していたのですが、学部を選ぶ段階では物理系へと進み、その後、大学院では医工系(生命科学系)を専攻し、化学系→物理系→医工系(生命科学系)へと興味がどんどんシフトしていき、理工系・医工系の技術分野を幅広く学んできました。

また、自分が所属していた審査第一部は基本的には物理系の技術分野を審査する審査室が多いですが、なかには、化学系寄り、医工系(生命科学系)寄りの技術分野もあったので、その意味で審査第一部の配属はちょうどよかったと思っています。特に、審査第一部に9つ審査室があるなかで、自分が研究していた研究テーマに近かった画像診断技術の審査(「分析診断」が担当)には非常に興味がありいつか審査を担当してみたいと思っていました。結果的には、在籍していた間に「計測」の審査室しか経験することができませんでしたが、自分が計測で担当していたGPS・レーダ/ソナー/ライダー・無線等による位置・距離測定センサー技術の分野は、幅広い



図2 審査第一部の担当技術

<https://www.jpo.go.jp/news/saiyo/kokka/pamphlet/document/index/tokkyo.pdf>

アプリケーションがあり、さらに、AIやIoTといった最新トレンドにも関係があったので、非常にやりがいのある楽しい技術分野であったと思います。

### 0.3 MBTI診断

以上の内容で、自分の人となりや何を何となくつかんでいただけたかと思いますが、最近、MBTI (Myers-Briggs Type Indicator) 診断というものを知り、試してみたら、それが結構当たっているように思い、面白かったため紹介させていただきます。MBTI診断というのは、複数の質問に答えていくことで、その回答結果に応じて、①エネルギーの方向 (E:外向/I:内

向)、②ものの見方 (S:感覚/N:直観)、③判断の仕方 (T:思考/F:感情)、④外界への接し方 (J:判断的態度/P:知覚的態度) の4つの指標から、 $2^4=16$ 種類に人の性格をタイプ別に分類するものようです。自分は、試してみたところ、ENFP型のようなものでした。長所 (+) / 短所 (-) キーワード、向いている (+) / いない (-) 仕事や職場の傾向等がわかるようで、キーワード等を参照してみると、自分でも割と当たっているように思い、以下のような性格の人物であることを踏まえて、本稿をお読みいただくと、納得感が得られるかもしれません。以下は、ENFP型について公開情報をもとに内容をまとめた表です。

図3 ENFP型の長所 (+) / 短所 (-) キーワード、向いている (+) / いない (-) 仕事や職場の傾向等

ENFP型	(+)	(-)
長所 (+) / 短所 (-) キーワード	優しい、世話好き、ポジティブ、クリエイティブ、穏やか、リラックス上手、共感力がある、笑顔、視野が広い、好奇心旺盛、フレキシブル、企画好き、アイデア豊富、環境適正力がある	八方美人、断れない、何でもできると言う、調子乗り、自分を隠す、現実を見られない、夢見心地、いい人止まり、束縛されやすい、思わせぶり、飽き性、集中できない、ルールを気にしない、笑ってごまかす
向いている (+) / いない (-) 仕事や職場の傾向	笑顔で人に接する仕事向き、人を楽しませることにやりがいを感じる、奉仕やサービス精神を必要とする職場で活躍できる、何かを企画して改革していくことができる、環境に柔軟に適應できるので毎日仕事先が変わるのも平気	コツコツとひとつのことだけをする単調作業、誰とも関わらず単独で行動する仕事、喋る機会が少ない仕事は物足りない、マニュアル通りにしなければならないのは苦手、じっと座る仕事



## 0.4 社会人としての略歴

ここで、社会人としての略歴について簡単に記載します。まず、2016年4月に、大学院（工学系）修了後、新卒で特許庁へと入庁し、審査第一部計測に配属され、GPS・レーダ／ソナー／ライダー・無線等による位置・距離測定センサー技術の特許審査をしておりました。審査部以外では、2021年1月に、総務部国策政策課多国間政策室、2022年7月に審査第一部調整課審査調査室などを経まして、2022年12月に、特許庁を退職しました。

その後、2023年1月に、デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザー合同会社（DTFA）へと入社し、現在は、DTFA内の知的財産アドバイザー業務を行う知的財産グループ（IPG）というチームにて、知財コンサルティング等を行いつつ、全社案件にも参画し知財に限らない業務オペレーション効率化等も担当しております。

## 0.5 本稿の構成

今回、本稿でお伝えしたい内容は、大きく、以下の3点です。

- 1 特許庁（JPO）での仕事の経歴や内容、感想など
- 2 現職（DTFA）の仕事内容、感想など
- 3 現職（DTFA）の仕事と特許庁（JPO）での仕事との関わり、特に、JPOでの経験が社会（またはDTFAでの仕事）にどのように活かしているかなど  
以下、順に述べていきたいと思います。

### 1 特許庁（JPO）での仕事の経歴や内容、感想など

#### 1.0 JPO入庁前

自分は、2016年4月に新卒で特許庁（JPO）に入庁しましたが、まず、「なぜファーストキャリアとしてJPOを選んだのか？」という点についてです。実は、大学院に行くまでは、当初、JPOに行くという選択肢は頭のなかに全く浮かんでおりませんでした。というのも、自分は大学院で医工学を専攻し、超音波を用いたがんの診断と治療に関する研究を行っていたところ、当初はどちらかというアカデミックな進路に進みたいと思っていました。ただ、大学院在籍時に天才的な人たちが自分には見えていない世界について空中戦で議論しているのを目の当たりにして、自分には到底かなわない世界だと怖気づいて

しまつてアカデミックな進路に進むのを断念してしまいました。

一方で、せっかくこれまで頑張ってきた理工系の知識等をせっかくだったら活用できる仕事はないか？ といった、いわばサンクコスト心理が働き、その候補の一つとして突如浮かび上がってきたのが、「特許庁で特許審査官として、理工系の知識を活かしながら特許審査を行う」という道でした。そして、JPOとの出会いも、完全に偶然でして、大学で開催されていた霞が関セミナーになんとか行き、5個くらいの省庁の話をなんとなく聞いて回っていて最後にふらっと話を聞きに行ったのがJPOでした。そのときは、JPOが経済産業省の外局であることすら知らない状況でしたが、そのとき、特許審査官の方から伺った話を聞いて直観的に面白そうな仕事だと思い、全く受験するつもりがなかった国家公務員試験を急遽受験することにして結果無事合格したため、JPOを官庁訪問し無事内定を頂けたので、JPOに入庁するに至りました。

ちなみに、JPOから内定を頂いた後に、ちょうど大学院時代の研究の成果の一部をPCT国際出願する機会がありました。「J-PlatPat」の特許・実用新案検索の論理式入力で、田中,2c,純/in\*超音波医療装置/tiなどと調べていただければ、自分が発明者となっている超音波医療装置に関する出願の再公表特許が見られるかと思しますので、もしご興味のある方がいらっしゃいましたら、ご覧いただけましたら幸いです（笑）

#### 1.1 審査官時代

##### 1.1.1 審査

入庁後は審査第一部計測に配属され、3ヶ月ほどの初任研修期間を経て、2016年7月から2020年12月まで、審査第一部計測にて、GPS・レーダ／ソナー／ライダー・無線等による位置・距離測定等のセンサー技術の審査（G01S）を担当しました。G01Sの分野は通信技術に近い技術分野であり専門用語も多く素人にはハードルの高い分野で、理工系の技術の理解度には割と自信があるほうではあったものの、初めは内容がなかなか理解できず、審査の際に技術的な理解の部分でだいぶ苦労しました。ただ、日々の審査のなかで、特許文献や、論文・技報をはじめとする非特許文献を毎日1000件前後読み

ながら、わからない点は指導審査官やグループ長に伺うなどしていたら、入庁してから3年くらい経過しちょうど審査官へと昇任するくらいのタイミングには、技術の理解度的にもある程度自信をもってほぼ独力で審査ができる状態へととなりました。

G01Sの技術は非常に難しく、初めは理解が大変で、自分の理解力のなさに呆れなかなかつらい時期もありましたが、独力で理解できる状態になってからは、衛星や自動運転など世の中的にもホットなトピックと関連していることもあり、楽しくやりがいをもって審査することができました。様々な最新技術にいち早く触れることができるのは、特許審査官の最大の醍醐味であると思います。また、G01Sの技術を担当されている審査官は、皆、学者のように頭のよい方々ばかりで非常に刺激を受けました。

そして、審査全般の印象として、入庁前は、発明者（出願する側）だったのが、入庁後は審査官（出願される側）へと立場が変わり、入庁前後で特許の見え方が180度転換しました。個人的に、審査を行う上で、出願する側と出願される側の両側からの視点をもって審査を行うことは、特許庁の「特許審査に関する品質ポリシー」に掲げられている「強く・広く・役に立つ特許権」の設定に欠かせないと考えており、出願する側の視点を入庁直後から意識できて

いたことは、入庁前に発明者として出願を経験しておいてよかったと思った点です。

### 1.1.2 研修制度

JPOには、庁内インターン、企業インターン、部内インターン、調査室インターン、大学聴講制度、英語研修制度といった様々な研修制度があり、研修制度には恵まれているかと思います。

庁内インターンでは、中韓台を主に担当する国際政策課多国間政策室多国間政策第二班（多政二班）でお世話になり、会合シーズンの10月には日中韓長官会合等の会合準備のお手伝いをさせていただきました。

企業インターンでは、医療機器メーカーや国立がん研究センターに行く機会に恵まれ、学生時代に研究を行っていた医工系の分野に関し知財の観点で改めて庁外から見るという機会に恵まれました。前述のとおり、出願する側の視点を意識しながら審査を行うことは、「強く・広く・役に立つ特許権」の設定に欠かせないと思うので、企業インターンを通して、その視点が学べるようになっているのは非常によいことだと思います。

部内インターンでは、A63F7/02：遊技機（パチンコ）の審査を行い、G01Sとは全く異なる技術の審

図4 G01Sでの担当技術（FI・説明・テーマコード）

FI	説明	テーマコード
G01S	無線による方位測定；無線による航行；電波の使用による距離または速度の決定；電波の反射または再放射を用いる位置測定または存在探知；その他の波を用いる類似の装置	5J057, 5J058, 5J061, 5J062, 5J063, 5J070, 5J083, 5J084
G01S 1/00	非指向性受信機により探知でき、かつビーコン送信機に関連して定められる方向、位置、または位置線を測定できる、1または複数の特性をもつ信号を送信するビーコンまたはビーコン方式；それと協働する受信機	5J057, 5J061, 5J083
G01S 3/00	方向性を有しない超音波、音波、超音波、電磁波、または粒子放射の到来する方向を決定するための方位測定機	5J058, 5J061, 5J083
G01S 5/00	2以上の方向、位置線測定を組み合わせることによる位置決定；2以上の距離測定を組み合わせることによる位置決定	5J062
G01S 7/00	グループG01S13/00, G01S15/00, G01S17/00による方式の細部	5J070, 5J083, 5J084
G01S 11/00	反射または再放射を使用しない距離または速度の測定方式	5J063
G01S 13/00	電波の反射または再放射を使用する方式、例. レーダ方式；波長または波の性質が無関係または不特定の波の反射または再放射を使用する類似の方式	5J070
G01S 15/00	音波の反射または再放射を使用する方式、例. ソナー方式	5J083
G01S 17/00	電波以外の電磁波の反射または再放射を使用する方式、例. ライダー方式	5J084
G01S 19/00	衛星電波ビーコン測位システム；当該システムから送信される信号を用いた、位置、速度または姿勢の決定	5J062

● 査を経験したことで、物理・光学・社会基盤・意匠の部門を擁する審査第一部の担当技術分野の幅広さを感じることができました。明細書が非常に分厚いことや、29条の2や39条の拒絶理由通知が非常に多いことなどはカルチャーショックでした(笑)。

● 調査室インターンでは、業務量調整の検討や審査第一部長の欧州発明大賞授賞式出席に伴う欧州出張のロジのお手伝いなどを行いました。当時、欧州発明大賞を受賞された吉野彰氏の技術説明の部長レク資料の作成を担当させていただいたのですが、その際にノーベル賞級の素晴らしい技術であると説明を行っており、後に、吉野彰氏が実際にノーベル賞を受賞した際には自分のことのように驚くとともに、非常に嬉しく思った覚えがあります。

● 大学聴講制度では、知財や技術経営戦略に関する講義を複数受講させていただき、そこで知財をビジネスの観点でどう活用するかという点を学びました。このときの経験が現職に転職するきっかけの一つとなっていると思います。非常に面白い講義を複数受講できたので、大学聴講制度は自分が受けた研修制度の中で一番おすすめの研修です。

● JPOには、ほかに、知財留学や技術先端留学等で海外留学に行く機会や、JETROや大使館等での海外駐在の機会もあり、自分は海外留学や駐在等には行かないままに庁外へと出てしまいましたが、そうした留学や駐在等の海外に行く機会も含めて、JPOは庁内で活躍していく人材を育成する制度が非常に充実していると思いますので、ぜひ、少しでも海外に行くことに興味がある方は、積極的にチャレンジすると思います。

### 1.1.3 特技懇幹事

● 2018年には、特技懇誌を発行している特許庁技術懇話会(特技懇)の会員情報幹事を務めていました。2018年の新人登壇の作成を行ったり、年に一度の特技懇パーティーに向けて準備を行ったり、毎週お昼休みにMTGを行ったりなど大変な1年間ではありましたが、普段あまり関わることのない他部の方々と一緒に作業する良い機会となったので、その点では楽しかったと思います。

● また、こうして、今回、特技懇に寄稿させていただく機会を与えていただけたことに大変感謝しております。今後とも何卒よろしく願いいたします。

## 1.2 国際政策課時代

### 1.2.1 国際課・国際政策課の印象

2021年1月からは、国際政策課多国間政策室多国間政策第一班(多政一班)で欧州係長への初の異動の辞令が出ました。入庁5年目でほぼ初めての審査以外の業務に携わることとなりましたが、庁内インターンで隣の多政二班に来ていたこともあって、そこまで違和感なく着任後もすぐになじめたように思います。

国際政策課は、元々同じ国際課であった、国際協力課と併せて、国際課(国際両課)などと言われたりもして、課内会議も一緒に行われたりするなどある種二つ合わせて一つの課のようでした。国際政策課は、主に、多国間業務(マルチ)と先進国との間の二国間業務(バイ)担当、国際協力課は、主に新興国・途上国との間の二国間業務(バイ)担当をしており、国際政策課と国際協力課が、JPOの国際業務の窓口となっています。

前述のとおり、自分は学部時代・大学院時代の研究室もいずれも多国籍な研究室に所属していたこと、住まいも多国籍なシェアハウスに住んでいることなど、比較的グローバルな環境に身を置いていることが多く慣れてきたことなどもあり、国際課は非常に居心地がよかったです。

そして、欧州係長は、その名のとおり、JPOの欧州関係の窓口となっており、欧州特許庁(EPO)をはじめとする欧州各庁との間の二国間業務(バイ)、さらに、JPO・EPO・米国特許商標庁(USPTO)とからなる日米欧三極特許庁間(マルチ)を主に担当していました。

加えて、WIPO総会時期には、国際課(国際政策課・国際協力課)の地域担当班の担当各国との長官・副長官級会談のロジ等のとりのまとめを欧州係長が担当します。それもあって、欧州係長のポジションはわりと国際課全体のトピックが集まってきやすく国際課全体が見渡しやすい立場であったように思い、その意味で非常に面白かったと思います。

### 1.2.2 多政一班

多政一班は、五庁(日米欧中韓)や三極(日米欧)との間の多国間業務(マルチ)、米欧との間の二国間業務(バイ)や、特許制度調和の枠組み(B+)、WIPO総会マージン会談の全体取りまとめ等を担当する班です。



自分が在籍した期間は、15年に一度のホストの大当たり年（3年ローテーションの会合と5年ローテーションの会合の最小公倍数）に当たっていて、五庁（日米欧中韓）、三極（日米欧）、B+の枠組の会合がすべてJPOホストであったこと、初のG7知財庁長官級会談が当時のG7議長国の英国ホストで開催されることとなったこと、WIPO GREENシンポジウム・日米欧三極共催の知財と環境問題に関するシンポジウムをJPOホストの下で開催したこと等、これ以上ないくらいに盛りだくさんであり、日々会合の準備と開催に追われ、あっという間に1年半が過ぎました。また、田中が国際政策課に在籍していた期間は、COVID-19の影響でほとんどがオンラインの会合であったところ、月の半分が会合のような繁忙期には、時差のために夜遅くスタートの会合も非常に多く大変でした。一方で、15年に一度のホストの大当たり年が対面開催でなくて本当によかったと

心の底から安心しました（笑）。

ちなみに、会合シーズンなどは、そうした大変な状況ではありましたが、自分は、その状況を楽しむ工夫として、前日の夜は、翌日の会合の相手国の料理を食べるようにしたり、当日の朝は、会合の相手国の出身のバンドの曲を電車で聴きながら出勤したりしていました。そうすることで、大変な状況でありながらも楽しんで過ごすことができているような気がします。

また、会合を行う際には、相手国の祝日に会合の日程をセットしてしまわないように気をつけたいといけないのですが、Outlookのカレンダーに欧州各国の祝日をダウンロードして入れていたところ、カレンダーが祝日だらけになってわけがわからなくなってしまいましたので、JETROが提供する世界の祝祭日の情報などを都度参照する方が賢明です（笑）。  
<https://www.jetro.go.jp/world/holiday.html>

図5 田中が在籍した期間の多政一班での主な業務（会合等対外的業務中心）

<https://www.jpo.go.jp/news/ugoki/202112/2021122401.html>

2021年		10月	WIPO総会（オンラインでの参加）
1月	英国のEU離脱（ブレグジット）による特許・商標・意匠等への影響のHP更新	10月	B+プレナリー会合 ※JPOホスト
1-4月	欧州特許庁との実務者会合（五庁関連等）を複数回	10月	EPOチーフエコノミストとの会合
2-4月	各国バイ会合（B+調査研究関連）（米・加・豪・英・独・仏・西・典・丁・EPO）	10月	G7知財庁長官級会談に関する実務者会合、G7知財庁間での共同声明調整
2-5月	五庁実務者会合（WG1, WG2, GDTF, ICG, WG3, PHEP, NET/AI, PMG会合）	10月	AIPPI（国際知的財産保護協会）オンラインイベントでの長官登壇
3-6月	三極専門家会合を複数回	10月	仏INPI（フランス産業財産庁）との長官会合
3月	在京フランス大使館参事官（仏INPIのIPアタッシェ）との意見交換	11月	UKIPO（英国知的財産庁）との長官会合
4月	三極協力における新たなビジョン・目的の公表	11月	EPO（欧州特許庁）との長官会合
4月	五庁副長官会合 ※JPOホスト	11月	三極長官ユーザー会合 ※JPOホスト
4月	DPMA（ドイツ特許商標庁）との実務者会合	11月	G7知財庁長官級会談
5月	DPMA（ドイツ特許商標庁）との副長官会合		G7知財庁間での初の共同声明公表
5月	EPO（欧州特許庁）との長官会合	11月	DKPTO（デンマーク特許商標庁）との長官会合
6月	WIPO GREENシンポジウム ※JPOホスト	12月	三極長官会合 ※JPOホスト
6月	五庁長官会合 ※JPOホスト	2022年	
8-12月	国際課（国際政策課・国際協力課）の地域担当班の担当各国との長官・副長官級会談のとりまとめ	2-6月	ロシア・ウクライナ情勢対応
8月	G7知財庁長官級会談に関する実務者会合	3月	三極知財・環境問題シンポジウム ※JPOホスト
9月	EUIPO（欧州連合知的財産庁）との長官会合	3月	三極特許庁による環境問題に関する初の共同声明公表
9月	PRV（スウェーデン知的財産庁）との長官会合	4月	五庁副長官会合
9月	ROSPATENT（ロシア特許庁）年次総会	4月	在京フランス大使館経済行使・参事官（仏INPIのIPアタッシェ）との意見交換@在京フランス大使館
		6月	五庁長官ユーザー会合、五庁長官会合

### 1.2.3 G7知財庁長官級会談

2021年11月19日に、G7参加国の知的財産庁(G7知財庁)の長官級が一堂に会する、G7知財庁長官級会談(G7 Heads of IP Office Conversation)が英国知的財産庁(UKIPO)のホストの下、テレビ会議形式で開催され、日本側の実務レベルの調整担当を務めており、共同声明の日本語の仮訳作成などを担当しました。本会談では、G7知財庁長官級に加え、オブザーバーとして、世界知的所有権機関(WIPO)のタン事務局長も参加し、知的財産分野に関する議論を行うと共に、G7知財庁による初の共同声明の採択を行いました。公衆衛生(パブリックヘルス)に関する分野においてもイノベーションの促進を支える上で知財制度は必要不可欠なものであること、AI等の新技術の発展を促す上で知財制度が大きな役割を果たすこと、知財エンフォースメントを効果的に行える環境が重要であることなどの点について確認を行いました。

また、本会談は日経新聞の記事としても取り上げていただけて、普段あまりフォーカスされないことがない知財の分野が注目していただけるよい機会となったので、大変嬉しく思いました。また、UKIPOの当時長官であったティム・モス長官(当時)から森長官(当時)宛のレター内にバイネームで自分の名前をご言及いただけたたり、UKIPOとの長官会合でも再度バイネームで言及いただけたたりしたことも大変嬉しく励みとなりました。

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUA196840Z11C21A1000000/>

そして、今年(2023年)は、G7の議長国が日本のため、G7知財庁長官級会談もJPOがホスト開催することとなりますが、メタバースのような最先端技術のトピックを取り上げ、さらに、この会談自体をメタバース空間上で開催するという話を伺っており、自分も外から非常に注目しております。こういった機会を通じて、知財業界全体のプレゼンスが高まってくればと期待しております。

[https://www.jpo.go.jp/news/chotatsu/kobo/20230530\\_g7metaverse.html](https://www.jpo.go.jp/news/chotatsu/kobo/20230530_g7metaverse.html)

### 1.2.4 日米欧三極共催の知財と環境問題に関するシンポジウム

2022年3月17日、日本国特許庁(JPO)主催の下、欧州特許庁(EPO)及び米国特許商標庁(USPTO)との共催で、「三極知財・環境問題シンポジウム〜カーボンニュートラル達成に向けた特許制度の貢献〜」をオンライン会議形式で開催しました。本シンポジウムの開催にあたっては、世界知的所有権機関(WIPO)並びに日米欧のユーザー団体である日本知的財産協会(JIPA)、ビジネス・ヨーロッパ(BE)、米国知的財産権法協会(AIPLA)及び米国知的財産権者協会(IPO)にご後援いただきました。

三極特許庁の共催で環境問題に関するシンポジウムが開催されるのは初で、本シンポジウムは、カーボンニュートラル社会の実現に向け、特許制度を戦略的に活用してカーボンニュートラル技術が開発・普及された事例を紹介するとともに、知財のカーボンニュートラル達成への貢献について議論を行って

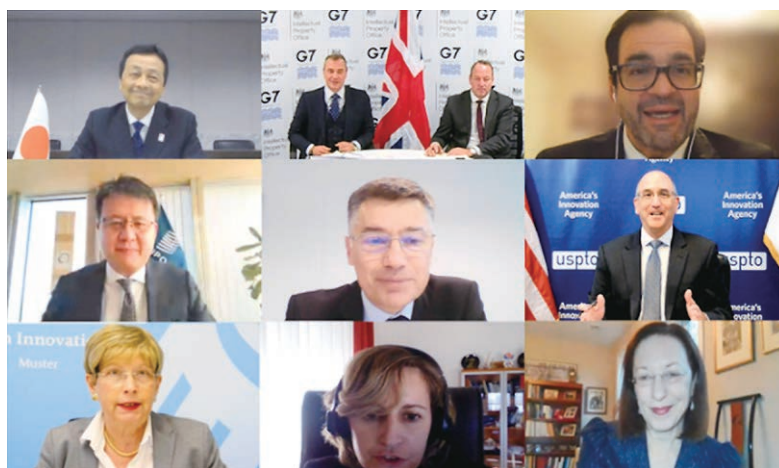


図6 第1回G7知財庁長官会談(2021年11月19日)の様子

<https://www.jpo.go.jp/news/ugoki/202111/2021112201.html>





図7 三極知財・環境問題シンポジウム（2022年3月17日）の様子

<https://www.jpo.go.jp/news/ugoki/202203/2022031801.html>

いただき、さらには、本シンポジウムの結果を受け、三極特許庁による環境問題に関する初の共同声明の採択を行いました。

WIPO ダレン・タン事務局長に加え、日米欧各長官・副長官級の登壇、日米欧の環境技術に強みをもつ代表企業の創業者の方々、日米欧のユーザー団体にご登壇いただきました。特に、日本の代表企業としては、株式会社ユーグレナの社長・創業者である出雲充氏にご登壇いただけまして、自分は出雲充氏の執筆された本を何冊か拝読したことがあったので、直接お会いすることができ、本でも読んだことのあるお話を含めて直接間近で伺うことができたのは、非常に貴重な経験でした。

また、本シンポジウムの内容は、シンポジウム全体の動画をYouTubeにアップロードするとともに、ダイジェスト動画の作成も行いました。字幕や画面をピックアップし切り抜き動画のようなものを作成した経験も非常に面白い経験でした。全体版だけでなく、longダイジェスト（6分半程度）とshortダイジェスト（1分程度）も作成しており、YouTubeのJPOチャンネル上にプレイリストを作成しておりますので、ご興味ございます方は検索いただけましたら幸いです。

<https://www.youtube.com/@jpochannel1477/playlists>

### 1.2.5 在京フランス大使館訪問

在京フランス大使館には、フランス産業財産庁（仏INPI）からのIPアタッシュが参事官としていらっしゃって、仏INPIとの間のコミュニケーションをとる際には、その方を通じてコミュニケーションをとっておりました。仏INPIの間では、時差がな

くコミュニケーションがとれるため非常にありがたかったです。

自分が国際政策課に在籍していた期間は、COVID-19の影響でほとんどの会合がオンラインの会合であったところ、その参事官の方がせっかく東京にいらっしゃるにもかかわらずなかなか対面でお話できる機会がなかったのは残念でしたが、2022年4月頃からようやく対面でのコミュニケーションが徐々に可能になってきて、自分が国際政策課から部署異動する少し前のタイミングで、在京フランス大使館にて対面でお会いすることが叶いました。在京フランス大使館に入館することは初めてであり、日頃やり取りをしていた参事官の方や経済行使の方と意見交換を対面にて行わせていただけて、大変貴重な経験となりました。

余談ですが、自分が住んでいる多国籍な大型シェアハウスで日本人の次に多く住んでいるのがフランス人であるので、公私ともにフランスとの関係性が強かったのは面白いと思いました。自分もフランス語が話せたら本当はよかったです。自分が知っているフランス語は「Ça va?」と「un, deux, trois,...」くらいですので、先はまだ遠いです。もっと英語以外の言語も覚えたいと思いました。

### 1.2.6 ロシア・ウクライナ情勢対応

ロシア・ウクライナ情勢を受けて、ロシアは多政一班の所掌、ウクライナは地域協力第二班（地協二班）の所掌であったため、地協二班と協力しつつ、また、外務省・経済産業省本省・財務省といった関係省庁と調整を行いながら国会質問対応なども行いました。国会質問対応はショートななかで正確な回

● 答を作成することが要求されるため、非常にハードであり大変苦勞はしましたが、これも貴重な経験となりました。国際関係業務は、このように国際情勢の影響を時折受けることもあるのだと思いました。

### 1.3 調整課審査調査室及び審査企画室時代

#### 1.3.1 調査室業務

● 審査第一部調整課審査調査室にては、専門官として、企業役員との間の意見交換の調整や審査第一部審査官の審査処理実績のデータ分析を通じた人員配置最適化の提案・審査業務効率化等を担当しました。調査室も、調査室インターンで一度業務を経験したこともあり、また、偶然、調査室メンバーが全員審査第一部計測の先輩方であったため、非常になじみやすく快適でした。

● 調査室では、審査第一部審査官の審査処理実績のデータ分析や審査業務効率化ツールの開発・メンテナンスなどを主に担当しており、VBA、SQL、JavaScript、HTML/CSSなどを使用する機会が結構あり、プログラミングの勉強にもなりました。

● また、ノーベル賞の自然科学3賞（生理学・医学賞、物理学賞、化学賞）の授賞者発表について、3夜連続で行われるところ、各部調査室は、関係のある技術分野の日については、受賞者発表のために待機することになっているのですが、一部調査室については、審査第一部が、前述のとおり、物理系、化学系、医工系（生命科学系）の技術分野の審査室を擁しているため、すべて待機の必要があり、3夜連続で発表まで待機していたのもいい思い出です。受賞が決まると、そこから該当技術に関する説明資料を作成し、レクの準備に入ることになるのですが、2022年は、日本人の受賞者がおりませんでしたので複雑な気分でした（笑）。

#### 1.3.2 審査第一部調整課審査企画室室内フリーアドレス化タスクフォース

● 審査調査室の在任中に、審査第一部調整課審査企画室室内フリーアドレス化タスクフォース担当の併任も追加となり、室内のフリーアドレス化に伴うオフィス機器の選定や見積もりなども行いました。元々、いくつかの審査室については、先駆けてフリーアドレス化が進められていたのですが、それを審査部全体に広げて全体的にフリーアドレス化を目指す

という計画であり、その初期に少し携わらせていただきました。残念ながら、完成を見届ける前に自分は退職してしまいましたが、各審査室がさらに働きやすくなった新たな執務室へと生まれ変わるのを外から楽しみにしております。

## 2 現職 (DTFA) の仕事内容、感想など

### 2.0 特許庁 (JPO) からデロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザー (DTFA) へ

2022年12月に特許庁を退職後、2023年1月に、デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザー 合同会社 (DTFA) に入社しました。前述のとおり、大学聴講プログラムで、知財や技術経営戦略に関する講義を複数受講しており、そこで知財をビジネスの観点でどう活用するかという点にかねてから興味をもつようになっており、DTFAには、知的財産アドバイザー業務を行う知的財産グループ (IPG) があって、まさに、知財をビジネスの観点でどう活用するかという点を仕事にできるということで、入社に至りました。

### 2.1 Deloitte Global・Deloitte Asia Pacific・デロイト トーマツ グループ・DTFA

「Deloitte」は、グローバルな組織でその規模が大きいため、まずは、Deloitte Global・Deloitte Asia Pacific・デロイト トーマツ グループ・DTFAについて、順を追って説明させていただきます。

● デロイト トウシュ トーマツ (Deloitte Touche Tohmatsu Limited: DTTL or Deloitte Global) は、会計事務所を母体とする国際4大プロフェッショナルファーム (Big 4) の一つである、世界最大規模のビジネスプロフェッショナルグループで、単に「Deloitte」と称されることも多いです。「デロイト」は米国、「トウシュ」は英国、「トーマツ (等松)」は日本のそれぞれの会計士の名前であり、米欧亜を広くカバーするファームであることを示す意図があるともいわれているそうです。ちなみに、自分は、1年ほど前まで、恥ずかしながら、「Deloitte」、「PwC」、「EY」、「KPMG」がまとめて「Big4」と呼ばれることすら知りませんでした（笑）。また、入社直後は、「Deloitte」のスペルが難しく、どのアルファベットが2つだったかがなかなか覚えられず（実際には、

「t」が2つ)、覚えられるまで、度々確認しておりました。

Deloitteは、創設以来175年余りの歴史を有し、150を超える国・地域にわたって活動を展開し、現在、グローバルで41万5,000人のメンバーが在籍しております(2023年7月時点)。そのなかで、日本のデロイト トーマツ グループは、Deloitteの主要なメンバーファームの一角です。Deloitte Asia Pacificが9万6,000人在籍しているなかで、デロイト トーマツ グループが1万9,000人、さらに、DTFA(子会社含む)は、そのなかの1,900人を占めています(各数値は、それぞれ、2023年7月時点のもの)。

デロイト トーマツ グループは、監査・保証業務、リスクアドバイザリー、コンサルティング、ファイナンシャルアドバイザリー、税務・法務の5つのビジネスとコーポレート機能から構成されていて、DTFAはそのなかのファイナンシャルアドバイザリー業務を担っている会社で、田中が所属する会社です。

一般に、コンサル業界は、その専門性によって、

戦略コンサル、業務コンサル、ITコンサル、組織・人事コンサル、FASコンサル、事業再生コンサル、シンクタンク領域などに分けられますが、DTFAは、そのなかでいうと、FASコンサルに分類され、M&A戦略立案、デュエリジェンス・バリユエーション、PMI(ポストマージャーインテグレーション)、M&A仲介、フォレンジック、CFOアドバイザリーなどといったサービスを提供します。

また、DTFAは、「日本のビジネスを強く、世界へ」をコーポレートスローガンに掲げています。このスローガンには、「日本企業が事業基盤を強固にし、海外へ展開していくことを私たちのグローバルネットワークを使って支援していきたい、日本企業がグローバル市場で勝者になるために、DTFAとして大きな貢献を果たしたい」といった思いが込められているようで、元国家公務員・元経済産業省職員としても、「日本のビジネスを強く、世界へ」という、このDTFAのコーポレートスローガンには非常に共感できます。

### デロイトトーマツグループ内法人と組織構成

グループ ガバナンス 経営執行	デロイトトーマツ(同)					
グループ内 ビジネス区分	監査・保証業務 Audit & Assurance	リスクアドバイザリー Risk Advisory	コンサルティング Consulting	ファイナンシャル アドバイザリー Financial Advisory	税務・法務 Tax & Legal	コーポレート Corporate
グループ 法人	有限責任監査法人トーマツ		デロイトトーマツ コンサルティング(同)	デロイトトーマツ ファイナンシャル アドバイザリー(同)	デロイトトーマツ税理士法人	デロイトトーマツグループ(同)
	デロイトトーマツ リスクアドバイザリー(株)	デロイトトーマツ アクツ(株)	デロイトトーマツ 人材機構(株)	デロイトトーマツ 税理士法人	DT弁護士法人	デロイトトーマツ サービス(株)
(同): 合同会社 (株): 株式会社	デロイトトーマツ サイバー(同)	デロイトトーマツ ノード(同)	デロイトトーマツ テレワークセンター(株)	デロイトトーマツ 行政書士法人	トーマツチャレンジド(株)	
	デロイトトーマツ ウェブサービス(株)	デロイトトーマツ リップルマーク(同)	デロイトトーマツ PRS(株)	デロイトトーマツ 弁理士法人		
	デロイトトーマツ スペースアンドセキュリティ(同)				デロイトトーマツ GTB(株)	
	デロイトトーマツ LHit データビジョナリー株式会社		デロイトトーマツ ベンチャーサポート(株)	デロイトトーマツ タレントプラットフォーム(株)		
	デロイトトーマツ サステナビリティ(株)		デロイトトーマツ ミック経済研究所(株)	デロイトトーマツ 社会保険労務士法人		
	デロイトトーマツ プロダクト&テクノロジー(株)		(株)シー・アイ・エー			
	(株)ウェブレッジ		UnsungHeroes(株)			
	(株)エスピーアイ					
	SPIインタラクティブ(株)					
	シンプルビジネスソリューションズ(株)					
					<b>財団</b> Foundation 一般財団法人デロイトトーマツ ウェルビーイング財団	

© 2023. For information, contact Deloitte Tohmatsu LLC

図8 デロイト トーマツ グループ内の法人と組織構成 (2023年8月1日現在)

2023年8月1日にデロイト トーマツ弁理士法人がグループに加入しております。  
<https://www2.deloitte.com/jp/ja/pages/about-deloitte/articles/organizational-structure.html>



## 2.2 DTFA 知的財産グループ (IPG) と提供業務

DTFAは、知的財産アドバイザー業務を行う知的財産グループ (IPG) を擁しており、企業、大学などで生じる技術資産・ブランド・コンテンツ等の知的財産の取引に伴う多様なニーズに関し、デロイト トーマツ グループおよびデロイトの国内外のネットワークを活用し、ビジネス・技術・法務・財務などの観点から、豊富な実績と経験を有する専門家が最善のソリューションを提供することで、知的財産の価値最大化を支援し、イノベーションによるクライアントの持続的な成長へ貢献しています。

DTFA IPGは、知財を専門とするプロフェッショナル集団で、大半が理系出身で、IoT、AI、5G、ライフサイエンス等の最先端技術への知見や知財分析スキルを有するメンバーから構成されており、メンバーには、弁理士・公認会計士資格保有者等も複数在籍しており、語学が堪能な方やプログラミングスキル

に長けている方もいらっしゃるなど、日々刺激を受けております。

IPGが提供する業務とその具体例についてご紹介します。

- ①知財DD/知財価値評価関連：Due Diligence (DD)、Valuation業務
- ②取引交渉・契約支援関連：M&Aアドバイザー、ライセンス契約支援、知財ファンド組成アドバイザー、買収(売却)候補先選定支援
- ③知財コンサルティング | 戦略策定関連：アライアンス構築支援、新規事業開発戦略立案支援、出願計画策定支援
- ④知財コンサルティング | 組織・管理関連：組織再編・権利移転スキーム検討、知財管理支援
- ⑤知財コンサルティング | 産学連携・研究開発支援 関連：大学・研究所向けソリューション、リサーチ

図9 DTFA IPGが提供するサービスとその具体例

<https://www2.deloitte.com/jp/ja/pages/strategy/articles/ipa/intellectual-property-service.html>

提供業務	提供業務の具体例
知財DD/知財価値評価関連	<p>〈Due Diligence (DD)〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・M&amp;Aに係る知的財産デューデリジェンス (半導体・電子デバイス・素材・化学・精密機器・住宅設備・商社他)</li> <li>・新規事業分野開拓型のM&amp;Aに係る知的財産デューデリジェンス (化学・バイオ・重工業)</li> <li>・ファンドによるベンチャー出資に係る知的財産デューデリジェンス (製薬・バイオ・電機)</li> <li>・ベンチャーの知財デューデリジェンス (化学・通信・金融)</li> </ul>
	<p>〈Valuation〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブランド (商標・企業ロゴ・化粧品・ゲーム機器・外食・食品・電子マネー・その他多数)</li> <li>・コンテンツ (ソフトウェア・映画・DVD化権・楽曲・キャラクター・アミューズメント施設・アニメ制作・ケーブルテレビ・ゲーム・その他多数)</li> <li>・特許権 (製薬・バイオ・医療機器・化学・電機・機械・エネルギー・ICT・その他多数)</li> <li>・知的財産関連訴訟における損害額シミュレーション支援</li> <li>・ベンチャーの事業価値・特許価値</li> <li>・大学の企業とのライセンス交渉における支援</li> </ul>
取引交渉・契約支援関連	<p>〈M&amp;Aアドバイザー〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・M&amp;Aアドバイザー (顧問契約) として製薬メーカー・印刷メーカー・ICT事業会社の各種相談業務</li> <li>・製薬メーカーによるペプチド医薬・核酸医薬関連のAPI・CMOメーカーの買収アドバイザー (in-out)</li> <li>・製薬メーカーによる新規パイプライン獲得のためのバイオベンチャー買収アドバイザー (in-out, in-in)</li> <li>・製薬メーカーによる子会社売却および共同販売契約による組織再編アドバイザー (out-in)</li> <li>・製薬メーカーによる子会社売却アドバイザー (in-in)</li> <li>・製薬メーカーによるバイオシミュラー事業に関する業務提携およびJV設立アドバイザー (in-out)</li> <li>・ファンドによるバイオベンチャーへの出資に関するアドバイザー (in-in)</li> <li>・特許権 (技術) 獲得 (化学・精密機械・医療機器・等) を目的とした買収アドバイザー (in-out)</li> </ul>
	<p>〈ライセンス契約支援〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロスポーツ業界の新会社設立におけるライセンス取引の評価支援</li> <li>・スポーツ系アパレルブランドのライセンス料率調査および料率交渉支援</li> <li>・化学メーカーにおけるライセンス料率設定およびライセンス契約支援</li> <li>・医薬品業界におけるライセンス料率調査支援</li> <li>・大学における対企業ライセンス交渉支援</li> </ul>
	<p>〈知財ファンド組成アドバイザー〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電機メーカーによる知的財産ファンド組成アドバイザー</li> </ul>

提供業務	提供業務の具体例
取引交渉・契約支援関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>〈買収（売却）候補先選定支援〉</li> <li>・コンテンツ獲得を目的とした買収候補先のスクリーニング（エンターテインメント）</li> <li>・技術を目的とした買収候補先のスクリーニング（石油化学・化学・製薬・バイオ・ICT）</li> <li>・海外進出を目的とした買収候補先のスクリーニング（製薬）</li> </ul>
知財コンサルティング   戦略策定関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>〈アライアンス構築支援〉</li> <li>・移動通信キャリアの次世代通信規格アライアンス構築支援</li> <li>・電機メーカーのアライアンス構築支援</li> <li>〈新規事業開発戦略立案支援〉</li> <li>・重工業メーカーにおける技術を起点とした新規事業開発戦略立案支援</li> <li>・化学メーカーにおける技術を起点とした新規事業開発戦略立案支援</li> <li>〈出願計画策定支援〉</li> <li>・電機メーカーにおけるクロスライセンスを目的とした出願計画策定支援</li> <li>・電機メーカーにおける競合企業分析を通じたソリューション関連特許の出願戦略策定支援</li> <li>・製薬メーカーにおけるデジタルヘルスに関する出願戦略策定支援</li> <li>・通信事業者における訴訟情報分析を通じた出願ガイドライン策定支援</li> <li>・産業機器メーカーにおける産業ロボット関連動向把握に基づく出願戦略策定支援</li> <li>・新規素材応用先、用途探索（総合住環境・電機）</li> <li>・自動車メーカーにおける商用車のホワイトスペース探索</li> <li>・インフラ事業者における共同出願分析に基づくポテンシャル顧客探索</li> </ul>
知財コンサルティング   組織・管理関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>〈組織再編・権利移転スキーム検討〉</li> <li>・プロスポーツ業界における新会社設立支援業務</li> <li>・製薬メーカーにおける知的財産管理業務に関する内部業務監査支援</li> <li>〈知財管理支援〉</li> <li>・製薬・総合電機・電機メーカーにおける知的財産マネジメント簡易診断</li> <li>・電機メーカーの知的財産の一元管理体制構築支援</li> <li>・電機メーカーにおける開発委託に係る特許管理体制構築支援</li> <li>・電機メーカーにおける技術輸出規制の論点整理</li> <li>・電機メーカーにおける特許のグローバル一元管理支援</li> <li>・金属メーカー・運輸業における知的財産マネジメント体制および管理指標導入支援</li> <li>・建設業における職務発明における貢献度分析および職務発明制度構築支援</li> <li>・自動車メーカーにおける知財マネジメント上の論点（権利化・ガバナンス・税務・会計等）整理</li> <li>・自動車メーカーにおけるブランドマネジメント体制構築支援</li> <li>・通信事業者における業界動向に基づく収益化支援</li> <li>・通信事業者における市場動向把握に基づくライセンスプログラム立ち上げ支援</li> <li>・合併会社における契約の知的財産帰属のロジック策定、貢献度分析</li> </ul>
知財コンサルティング   産学連携・研究開発支援関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>〈大学・研究所向けソリューション〉</li> <li>・医療分野における共同研究提携支援</li> <li>・医療分野における業界動向・技術動向調査</li> <li>・保有特許の収益化有望領域の特定支援</li> <li>・大学の外部法人化に向けた論点整理</li> <li>〈リサーチ〉</li> <li>・医療画像診断装置分野への新規参入検討調査</li> <li>・印刷メーカーの新規事業参入における競合状況検討支援</li> <li>・自動車業界におけるR&amp;Dベンチマークに関する特許調査</li> <li>・中国におけるハイブリッド・電気自動車部品サプライヤーに関する特許調査</li> </ul>

### 2.3 IPランドスケープの活用シーンと手法の一例

また、DTFA IPGでは、近年、知財業界でも多く聞かれるようになったIPランドスケープ活用に関する業務も行っておりますので、それについて紹介させていただきたいと思っております。従来、特許情報を用いた分析として「パテントマップ」という手法が用いられてきたところ、パテントマップは、特許価値向上、特許戦略立案を主な目的とした現状分析（仮説検証）が中心であったところ、IPランドスケープは、企業価値の向上、事業戦略立案を目的とした将

来予測（仮説構築）が中心であり、DTFA IPGでは、「探索」「予測」の実行において、特に有効なソリューションとなり得ると考えております。

#### 2.3.1 IPランドスケープの探索への活用

各種探索に関するIPランドスケープの活用シーンの一例を4つ紹介します。

##### 2.3.1.1 M & A・アライアンス候補探索

M & A、資本提携、事業提携、技術提携を含む、

広い意味でのアライアンス候補先企業を探索します。

〈例〉

- ◎技術・デザイン・ブランドなどの権利を保有する企業を知財情報に基づき抽出
- ◎ロングリストからショートリストへの絞り込みを行うための評価軸の1つとして活用
- ◎戦略適合性、事業親和性、技術シナジーなどの具体的な検討が可能

### 2.3.1.2 新規事業開発/R & Dテーマ探索

新規事業開発、イノベーション・マネジメントの一環としての知財活動により、新たな価値を創出します。

〈例〉

- ◎パテントマップや引用・被引用分析などの知財情報と、ビジネス・マーケット情報を統合
- ◎社会・顧客の課題解決につながる革新的手法（技術/アイデア）による新たな価値（製品/サービス）の検討
- ◎社会・顧客への普及・浸透を通じて、ビジネス上の利益・対価（キャッシュ）を獲得するための知財活用の検討

### 2.3.1.3 新規事業領域での最適な人材候補の抽出

新規事業領域における特許出願の発明者を分析することで最適な人材候補を抽出します。

〈例〉

- ◎発明者分析により発明チームを特定し、チーム構成、出願技術内容、および、公開情報から各メンバーのコアコンピテンシーを抽出
- ◎自社の事業情報、R & D情報、特許情報などの分析により獲得すべき人物像を特定
- ◎コアコンピテンシーを抽出した発明者リストから獲得すべき人材候補を抽出

### 2.3.1.4 ポテンシャル顧客探索

既存事業資産を展開可能なポテンシャル顧客を探索します。

〈例〉

- ◎既存事業に関連する共同出願や特許譲渡などの特許情報に基づく新たなビジネス関係を抽出
- ◎抽出された新たなビジネス関係にある企業同士の関係性を分析し、既存事業資産を展開可能なポテンシャル顧客を探索

### 2.3.2 IPランドスケープの予測への活用

本セクションでは、各種予測に関するIPランドスケープの活用シーンの一例を4つ紹介します。

#### 2.3.2.1 新規参入者の予測

特定の事業領域に関連する特許出願情報を分析することで新規参入者を予測します。

〈例〉

- ◎特定の事業領域、およびその周辺技術領域を対象とした出願人分析に基づき新規参入者候補を抽出
- ◎新規参入者候補の抽出は出願件数ランキングのロングテールまで含めて実施
- ◎出願技術内容、出願動向、事業内容に基づき参入確度を算出

#### 2.3.2.2 競合の戦略予測

市場環境と特許情報を分析することで競合の戦略を予測します。

〈例〉

- ◎業界動向、従来の事業戦略/ビジネスモデル、R & D/出願動向を分析
- ◎市場環境と現在競合が保有するリソース、獲得し始めている新たな技術からターゲット市場を予測
- ◎予測されたターゲット市場と不足するリソースから競合の戦略を予測

#### 2.3.2.3 マーケットイン型ソリューション開発

カスタマーの技術ニーズからマーケットイン型のソリューション候補を予測します。

〈例〉

- ◎サプライヤー・カスタマーの製品・R & D・出願動向から、技術ニーズを解釈
- ◎カスタマーの技術ニーズを読み解くことで、事業であってもニーズに基づくおよび新規ソリューション開発が可能

#### 2.3.2.4 将来の事業リスク予測

事業（知財）リスクを低減すると同時に、エコシステムの構築による仲間作りと自社の利益確保を両立する方法を検討します。

〈例〉

- ◎事業環境を踏まえたオープン&クローズ戦略を検討
- ◎先進技術の普及、特許侵害訴訟の増加（高額賠償



化)、非実施主体 (NPE) リスクの増加などの事業リスクの増大への対応方針の検討

- ・知財獲得：自前の特許出願の増加、R & D人材の外部獲得、M & A および特許購入
- ・知財活用：包括クロスライセンスの推進、オープンアライアンス団体の設立

### 2.3.3 IP ランドスケープの手法の組合せ

前述の通り、IP ランドスケープは多様な活用シーンを有します。そのため、手法などを組み合わせることで、自社と競合企業を中心に、異業種、顧客、代替品、パートナーの観点から、自社リソースの活用対象の探索や、異業種からの新規参入などの外部環境の予測など、全方位的なインサイトを得ることが可能となります。

#### 2.3.3.1 引用分析

引用情報を利用し、親子引用 (直接引用) / 兄弟引用の技術内容、および出願人の業種を分析することで、自社技術を起点とした競合企業、異業種企業、顧客の展望を予測、さらにポテンシャル顧客を探索します。また、分析対象を兄弟引用に拡大することで、更なるインサイトの取得が期待できます。

〈アウトプット〉

- I. 競合の戦略予測
  - ・自社技術と類似する競合技術がどのような顧客企業、異業種企業と引用関係にあるのか分析することで競合がターゲットとしている可能性のあるマーケットと事業ポジションを予測
- II. 異業種参入予測
  - ・自社技術と直接引用や兄弟引用にある技術の出願人を分析することで、どのような異業種が参入してくる可能性があるのか予測
- III. 顧客ニーズ予測
  - ・自社技術や自社技術に類似する競合技術を引用する顧客の出願を分析することで、顧客がどのようなニーズを持っているのか予測
- IV. ポテンシャル顧客探索
  - ・自社技術の兄弟引用、当該兄弟引用をさらに引用する出願の出願人を分析することで、現状直接的に見えていないポテンシャル顧客を探索

#### 2.3.3.2 用途/課題分析

技術起点の特許母集団を作成し、用途/課題の分

析、および出願人の業種の分析により、課題にひもづく新たな用途、新規 R & D テーマを探索、および異業種企業の参入や代替品の出現を予測します。単なる用途/課題マトリクスを描画して終わらせるのではなく、市場情報などと統合し、技術・課題・用途・業種の連関を分析すること重要となります。

〈アウトプット〉

- I. 新規事業探索
  - ・自社技術が解決する課題を解決する別技術に係る特許を分析し、当該特許の用途を特定することで新規事業を探索
- II. 新規 R & D テーマ探索
  - ・自社技術の応用先である用途を対象とする別技術に係る特許を分析し、当該特許に記載のある課題を特定することで、自社技術をさらに改良するための新規 R & D テーマを探索
- III. 異業種参入予測
  - ・自社技術の応用先である用途を対象とする別技術に係る特許の出願人を分析することで、どのような異業種企業が参入してくる可能性があるのか予測
- IV. 代替品出現予測
  - ・自社技術により解決する課題を解決する別技術に係る特許を分析し、自社の技術とは異なるが同一課題を解決する代替品の出現を予測

#### 2.3.3.3 譲渡履歴分析

譲渡履歴 (担保権設定履歴を含む) の分析により、競合企業の戦略予測、および新規パートナー、ライセンス先、ポテンシャル顧客を探索します。

〈アウトプット〉

- I. 競合の戦略予測
  - ・競合が調達している特許を分析することで、従来出願していた技術と異なる技術の獲得を検知し、競合の戦略を予測
- II. 新規パートナー探索
  - ・自社の属する業界へ特許譲渡している業種を特定し、当該業界のプレイヤーを分析することで新規パートナーを探索
  - ・担保権設定を行う企業を特定し、有望なベンチャーを探索する
- III. ポテンシャル顧客探索
  - ・競合企業が特許を譲渡している企業の業種を特定し、譲渡された特許を分析することで、現状では

直接的に見えていないポテンシャル顧客を探索

#### IV. ライセンス先探索

- ・競合企業が特許を譲渡している企業の業種を分析することで、自社技術ニーズがある業界を特定し、現状では直接的に見えていないライセンス先を探索

#### 2.3.3.4 共願分析

出願人の事業規模、業種、技術内容を含めた共同出願の分析をすることで、競合企業の戦略予測、アライアンス先探索、ポテンシャル顧客探索を行います。分析では、共願の技術内容だけでなく、出願人の事業規模、業種、通常の出願傾向（出願技術の異質性など）を含めて分析を行います。

〈アウトプット〉

##### I. 競合の戦略予測

- ・競合企業の共同出願のうち、従来の出願領域とは異なる出願技術を検知し、共同出願のパートナー企業と出願技術を分析することで、競合企業の戦略を予測

##### II. 新規パートナー探索

- ・異業種間の共同出願を分析することで、自社と親和性の高い業種を特定し、当該業種に所属するプレイヤーから新規パートナーを探索

##### III. ポテンシャル顧客探索

- ・事業規模の異なる企業同士の共同出願のうち、異業種同士の共同出願を分析することで、現状では

直接的に見えていないポテンシャル顧客を探索

<https://faportal.deloitte.jp/times/articles/000670.html#TmFONDEzNTEy>

#### 2.4 DTFAでのこれまでの経験業務

本稿執筆時点は、自分がDTFAに入社後半が経過したタイミングであり、プロジェクトの経験はそこまで多くない状況ではありますが、業務の流れについて説明させていただきます。提案から受注までの活動をPD (Project Development) といい、まずは、ディスカッションペーパーを作成しながらこのPDを行います。そして、受注が決まると、PJ (Project) にアサインされたメンバーによりデリバリーを行います。

PJでは、基本的に、管理職層 (Senior Vice President (SVP) や Vice President (VP) 等の VP up) の下に、我々スタッフ層 (Senior Analyst (SA)、Analyst (A)、Junior Analyst (JA)) がついて、VP up のレビューを日々受けながら業務を進めます。また、クライアントへの重要な報告会の前には、Partner/Director などのレビューを挟みます。レビューは特許庁でいうところのレクに近い感覚であり、レビューにて指摘いただいた事項をもとに、必要に応じて、追加の調査・作業を行い、資料をリバイスし、報告会にて、クライアントが有する課題への解決策の提示を行います。

自分は、これまでIPGにて、戦略策定関連、産学連携・研究開発支援関連の知財コンサルティング案

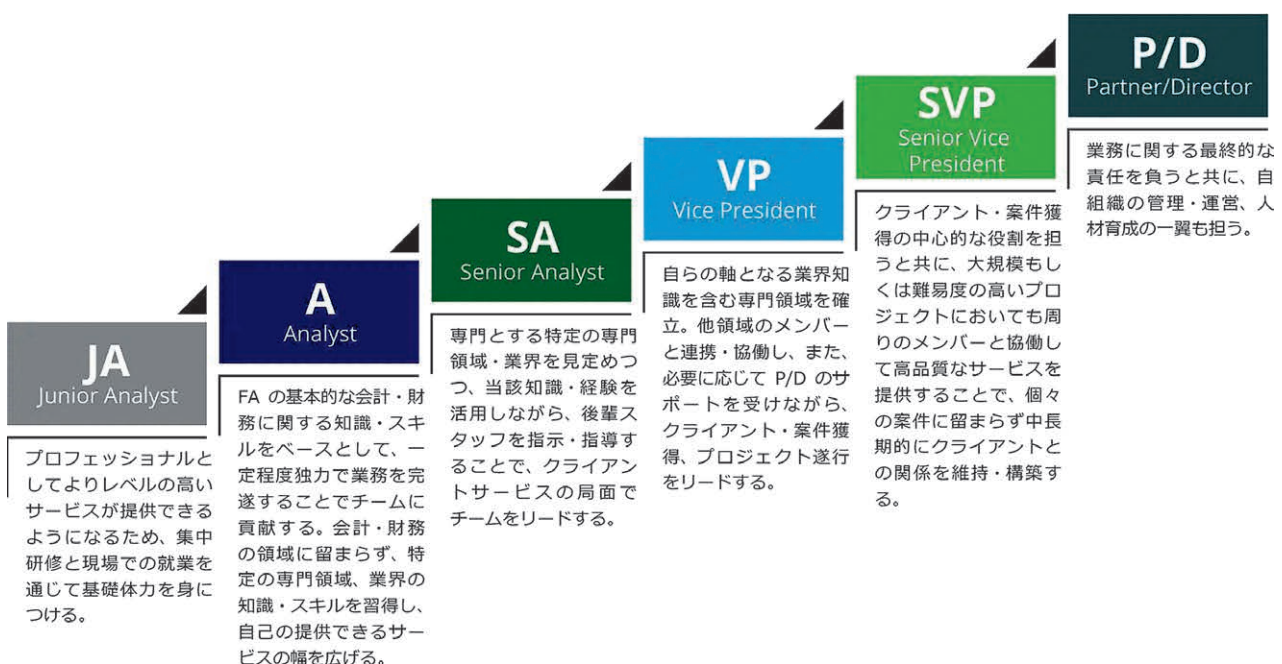


図10 DTFAにおける職位

<https://www2.deloitte.com/jp/ja/careers/dtfa/education.html>

件に携わらせていただき、特許データベースや企業情報データベースを用いたデスクトップ調査や、有識者ヒアリング等を通じて、調査・分析を行い、その結果をまとめた資料作成し、作成した資料をもとに、報告会でクライアントへソリューション提案といった流れで業務を進めておりました。

その他に、自分は直近では、全社案件にアサインされ、知財に限らないコンサルティング業務を行っております。業務オペレーション効率化に関する課題対応を行うチームのチームリーダーを現在務めており、クライアントとの対話のなかから課題を発見し、その課題解決を目指すということを日々行っております。その際には、特許庁で培われた様々なステークホルダーとの間で調整する力が非常に活きていると感じます。

## 2.5 コンサルタントとして働くうえで求められると思われるスキル・力

個人的な考えとなりますが、コンサルタントとして働くうえで求められると自分が常々思うスキル・能力は、大まかにいうと、体力、忍耐力、知力であると考えておまして、特に、知力の部分は、専門分野の知識・スキル、リサーチ・インプットスキル、コミュニケーションスキル、ファシリテーションスキル、プレゼンテーションスキル、ドキュメンテーションスキル、ITスキル、タイムマネジメント力、問題解決力、論理的思考力などといったようにさらにいろいろな要素があると思っています。

そして、このなかで体力と忍耐力については、元々人よりも自信があるほうなのですが、知力については、専門分野の知識・スキル（知的財産全般、理数系・医学・工学全般、一般教養全般、英語）、リサーチ・インプットスキル、コミュニケーションスキルはそれなりにあると思っているものの、ファシリテーションスキル、プレゼンテーションスキル、ドキュメンテーションスキル、ITスキル、タイムマネジメント力、問題解決力、論理的思考力などはまだまだ十分でないと考えており、日々の業務のなかで特にスキルアップを心がけております。優秀な同僚と一緒に業務を行うなかで業務を効率的に進める手技を色々と盗んで自分のものにしていけるかどうかポイントであると考えており、それが現在の自分の課題です。

入社直後の1-4月はリモートワーク環境下で働く

機会も多く、同僚があまり近くにいなかったためにそのスキルアップがなかなか図りづらい状況ではありましたが、5月以降は、客先常駐の全社案件に入っており対面での仕事ということもあり、一緒に働く同僚の横で「半学半教」の精神で教え学び合っており、日々成長を感じております。学ぶべきことが非常に多く、自分の能力のなさを痛感する日々ではありますが、日々新しいことを知ったり、新たにできるようになることが増えたりするので、非常に楽しく過ごしております。

## 3 現職 (DTFA) の仕事と特許庁 (JPO) での仕事との関わり、特に、JPOでの経験が社会 (またはDTFAでの仕事) にどのように活かしているか

### 3.1 現在の仕事と特許庁での仕事との関わり、特許庁での経験が社会 (または現職) にどのように活かしているか

現在の田中のDTFAでの所属は知的財産アドバイザー業務を行う知的財産グループ (IPG) ですので、言うまでもなく、特許庁とは深くかかわりがあり、特許庁関連のPJを実施させていただく機会も多いです。また、特許庁では、庁内インターン、企業インターン、部内インターン、調査室インターン、大学聴講制度、英語研修制度といった様々な研修制度がありましたが、例えば、大学聴講制度では、知財をビジネスの観点でどう活用するかについて学べて、その経験が現職での業務理解に非常に活かしております。

また、英語研修や国際関係業務を通じて英語力を伸ばすことができたことで、DTFAのクライアントはグローバルカンパニーもあり、グローバルな案件も存在しますので、これまでのところまだ携わったことはないですが、そのうち、携わることができれば、その際に英語力が役立ってくると思います。

そして、現在、全社案件にもアサインされ、知財に限らない業務オペレーション効率化等も担当しておりますが、そこでは、審査第一部調整課審査調査室での専門官としての審査処理実績のデータ分析を通じた人員配置最適化の提案・審査業務効率化等の経験が非常に活きていると感じています。

このように、特許庁には、自分のスキルとなる、研修制度やキャリアパスが幅広く設けられておりますので、若手のうちに積極的に研修を受講したり、自分



● が身につけたいスキルが身につくような部署への異動を希望したりすることでその後のキャリアパスの可能性がさらに広がっていくように思います。自分は結果として、庁外に出ることとなりましたが、庁内にいようが、庁外にいようが、考え方次第・行動次第で面白いことをやれるチャンスはいくらでもあると考えています。特に、知財留学や技術先端留学等の海外留学、JETROや大使館での海外駐在は民間企業ではなかなか得られない貴重な経験かと思っておりますので、ぜひ行くチャンスがあるのならば行くことで大きな糧となるように思いますし、庁内若手の皆様は、ぜひチャレンジしていただくとよいように思います。

### 3.2 特許庁・知財と社会とのつながり

● 最近、TBSの「下町ロケット」や日本テレビの「それってパクリじゃないですか?」など、ドラマでも特許が扱われるようになってきたかと思っております。特に、「それってパクリじゃないですか?」の第5話では、特許庁の実際の審査室・審判廷が使用されることを事前に伺っていたので、わざわざ録画して拝見しました。見たことのある風景や見たことのある職員の方が出てきたシーンでは、少しテンションが上がりました(笑)。このように、少しずつ知財が日本の社会でも注目されてきている流れを感じることができ、こうした傾向は、知財業界に身を置くものとして、大変喜ばしく感じています。

● また、DTFAのコーポレートスローガンは「日本のビジネスを強く、世界へ」というものでありますが、特許法第1条は、「この法律は、発明の保護及び利用を図ることにより、発明を奨励し、もつて産業の発達に寄与することを目的とする。」というもので、まさに、特許法第1条のとおり、特許は産業の発達に寄与するものであって、「日本のビジネスを強く、世界へ」と広く打ち出していくカギとなるのは、特許をはじめとする知財であると自分は強く信じております。自分も知財業界の人間の一人として、しかも、庁内外で知財に携わった経験を活かしながら、今後知財業界のプレゼンスがさらに高まっていく貢献ができればと考えております。

### 3.3 最後に

● 最後に、本稿のタイトルを、「Get a Life!」とさせていただいた理由について説明させていただきます。

「Get a Life!」という言葉で以前聞いたときに「下駄ライフ」に空耳的に聞こえて自分にぴったりの面白い言葉だと思ったことがあるのが、この言葉に注目したきっかけです。「Get a Life!」は、「もっと人生楽しめよ!」、「まじめに生きろよ!」といった意味で使われたりしますが、自分にとっても、日々の生活で何となく生きてしまっているときなどに度々頭に思い浮かべ自らを奮い立たせる言葉となっています。本稿を最後まで読んでくださった皆様も、日々の生活で何となく生きてしまっている瞬間がございましたら、この言葉を思い出していただければ幸いです。本稿のタイトルもこれにしてみました。

### 3.4 謝辞

まず、自分がJPO在籍時に一緒にお仕事させていただいた皆様には色々とお世話になりました。特に、指導審査官を務めていただいた中村さん、高場さん、山下さんをはじめとするG01Sの審査グループの皆様には、感謝してもし尽くせないほど大変お世話になりました。

● また、現在、DTFAで一緒にお仕事させていただいている皆様には、日頃大変お世話になっております。日々、皆様の能力の高さに刺激を受けております。今回の執筆にあたって、色々のご助言などいただき、大変助かりました。

改めて、普段お世話になっている皆様に深く御礼申し上げます。皆様、今後とも田中 純を何卒よろしくお願いいたします!

## profile

田中 純

(たなか じゅん Jun Tanaka)

2016年4月 特許庁入庁(審査第一部計測)

2019年4月 審査官昇任

2021年1月-2022年6月 総務部国際

政策課多国間政策室欧州係長

2022年7月-2022年12月 審査第一部調整課審査調査室専門官

2022年10月-2022年12月 審査第一部調整課審査企画室

庁内フリーアドレス化タスクフォース(併)

2022年12月 特許庁退職

2023年1月 デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザー  
合同会社入社(至現在)



この記事が気に入ったら、  
QRコードからスマホで  
「いいね!」を送ってね!

※ログイン不要・匿名でOK

